



大坂の疫病

報道等でもご承知の通り、新型コロナウイルスが世界規模で猛威を振るっています。人類の歴史は疫病との戦いの歴史でもあり、ここ大阪でも近世までは数多くの疫病の流行が記録に残っています。

古いものでは、仏教伝来時に仏像とともに海外からもたらされた天然痘により、多くの死者が出た事から、仏像を難波堀江に投げ捨てたという記録や、天平時代にも同じく畿内で天然痘の大流行があり、その鎮静を祈願して奈良・東大寺の大仏建立に繋がったともいわれています。

平安時代には、疫病などの災厄は疫神や、不自然な死を遂げた高位の人物が怨霊となって祟っているからと考え、御霊会という鎮魂の為の祭祀が行われるようになり、後に京都の祇園祭の祖型となっていくきます。更にそこから大阪はじめ各地の神社にも伝播し、疫病除けの祈りも込めて、夏祭りなどの形になっていったといわれています。

江戸時代には、天然痘、麻疹(はしか)、水疱瘡等の疫病は「お役三病」ともいわれ、一生に一度しか罹患しないこの疫病を無事乗り越える事が健康面での最大の願いでもありました。

その中で梅田では江戸時代後期、毎年五月五日には牛の敷入りという行事が行われ、この行事の中で牛の背中に縁起物のチマキを乗せ、それを子供が食べると疫病除けになるといわれ、チマキ欲しさに、多くの人が集まったといわれています。また幕末の大坂ではコレラが流行し、その治療を祈念して、薬問屋の集まる道修町の少彦名神社では虎頭殺鬼雄黄圓という丸薬と、張り子の虎を授与し、疫病に対する備えを説いていました。

明治時代になり、先人の疫病に対する懸命の努力の結果、スペイン風邪以降、ここ百年、大阪においてには疫病に民衆の命がおびやかされるという深刻な状況は殆ど無く、これは日本史の中で、非常に幸福な年月であったといえるでしょう。

現在、約百年ぶりとなる疫病の流行で、一部では過激な情報も飛び交っていますが、神仏によって心を守り、先人の医薬研究の成果で身体を守り、私達の代まで生命を繋いでくださったご先祖さま方に恥じないよう、疎かな情報に惑わされる事なく、心の備え、身体の備えを大切にしましょう。

今季の梅花について

先月、当宮境内には春を忘れず梅の花が咲きましたが、例年に比べ、大変花数が少なく、参拝者の方々からご心配のお声を頂戴しました。

この原因は三つあり、一つは昨夏の暑さによるものです。年々梅田の都市気温は上昇するばかりで、またコンクリやアスファルトに籠もった熱は夜になっても熱を放ち続け、根っこが休めるのは深夜0時をまわってから夜明けまでの僅かな時間しか無く、近年その影響で樹勢が極めて弱くなってきております。梅は元来涼しげな高地に生える木である事から、生育環境としてかなり厳しくなってきたようです。

もう一つは周辺に高層のマンションなどのビルが増えた事による日当たりの低下、最後の一つは今季の異常な暖冬で、あまりの暖かさに、花芽をつけずに葉芽をつけてしまった事で、花数が極端に減ったようです。これらは特に茶屋町の御旅社で顕著にあらわれております。

近年の異常気象に、梅の木も大きな影響を受けているようです。今後とも注視して参ります。

今月の暦

【祭祀】

上巳被(三日)：神事のみ ひなまつり
春季皇霊祭(廿日)：神事のみ。祖先崇拜。豊稷祈願
菜種御供(廿五日)：神事のみ 御旅社

【節気】

啓蛰(五日)：冬籠りの虫が目覚ます頃。菖焼き
春分(廿日)：昼夜等分の候

【雑節】

春の社日(十六日)：産土神を詣でる。ボケ封じの御縁日
春の彼岸(三月十七日～三月廿三日) お墓参り
旧初午(十四日)：旧暦のお稲荷さんの御縁日。商売繁盛

【大安】

三月四日、十日、十六日、廿二日、廿六日

【祝日】

春分の日(廿日)

【旬】

【野菜】 菜の花、山菜類、ひじき、アスパラガス、空豆
【果物】 イチゴ、キウイ、中晩柑橋類、
【魚介類】 ホタルイカ、タイ、ハマグリ、ニシン、イカナゴ
【その他】 菜の花、ソクシ、牛乳、マッシュルーム

雑感

新型コロナウイルス問題で、先月から梅田の人通りも少なく感じています。しかし翻ってみれば、籠もる時間が増えたという事でもあり、これまで手つかずであった整理整頓などをこの機会にしてみるのも良い気分転換になるかもしれません。しかしながら、まずはお身体お大切に願うばかりです。

網敷天神社 SNS、地図サイト



編著 網敷天神社 禰宜(御旅社 神主)
白江 秀 知

禰宜(御旅社 神主)

